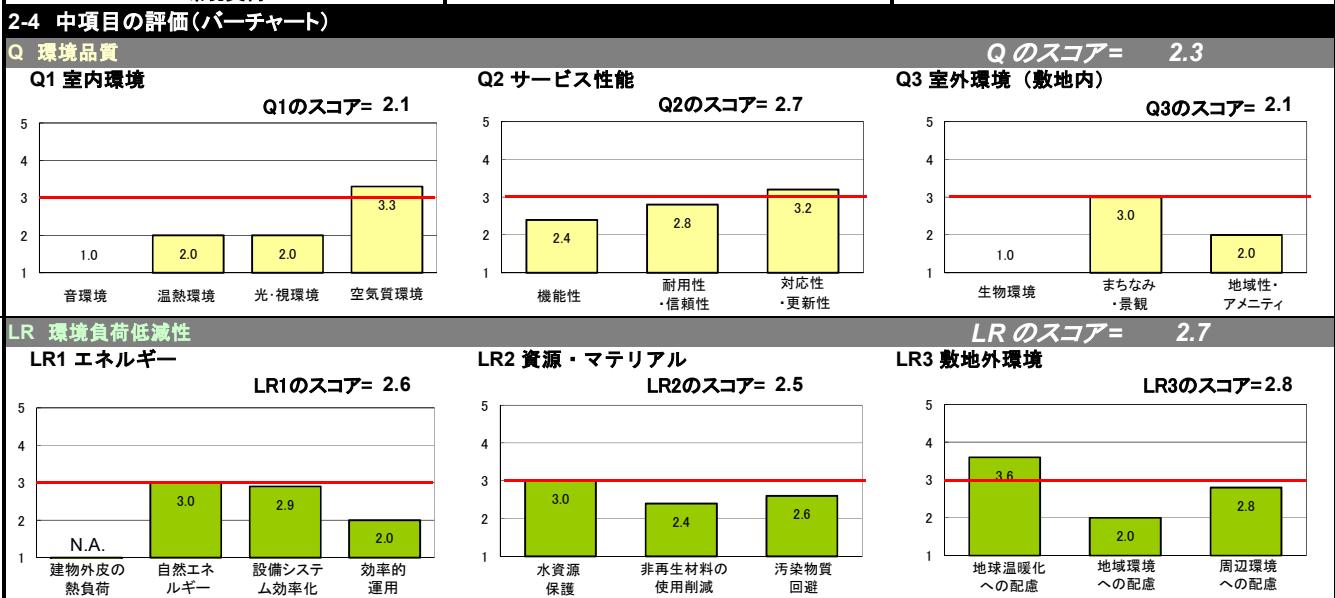
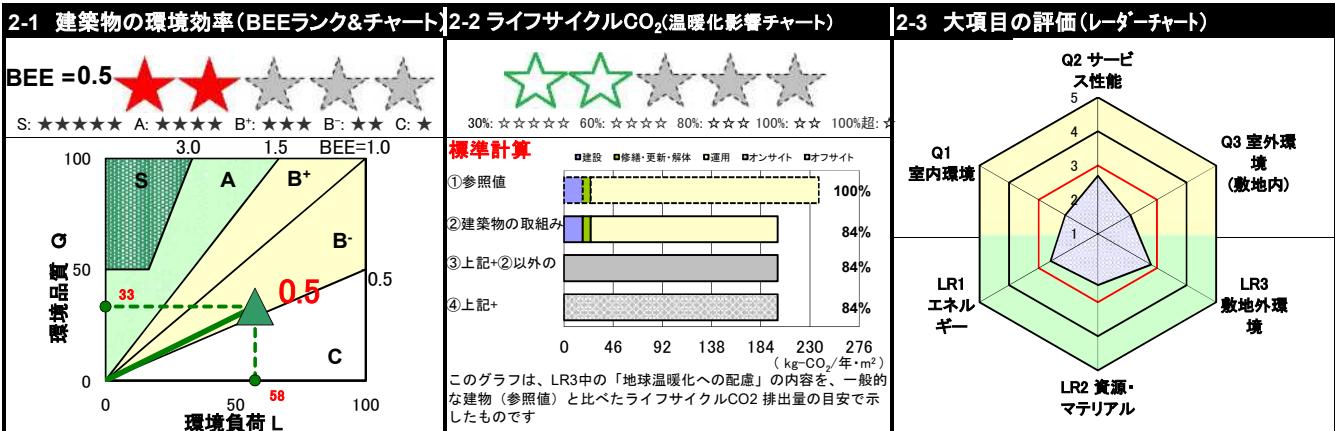


## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21032

建築物名称	(仮称)ライフ川崎塚越店
建築主	株式会社ライフコーポレーション 代表取締役社長執行役員 岩崎 高治
建築物の所在地	川崎市幸区塚越4丁目298番1
設計者氏名、建築士事務所名	中山 哲次 株式会社伊藤建築設計事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	7,678.38m <sup>2</sup>
用途	物品販売を営む店舗、自動車車庫、自転車駐輪場
構造	鉄骨造
階数	地上4階
工事完了年月	令和5年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ライフ川崎塚越店	階数	地上4F
建設地	川崎市幸区塚越4丁目298-1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	950 人
地域区分	6地域	年間使用時間	7,000 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 竣工	評価の実施日	2023年3月23日
敷地面積	3,967 m <sup>2</sup>	作成者	岡田一平
建築面積	2,775 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月23日
延床面積	7,678 m <sup>2</sup>	確認者	岡田一平



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計 (5点満点)	重点項目への貢献点(注) (5点満点)	
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。				
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>		<b>1.5</b>	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑化指針に適合している。 周辺地域に圧迫感を与えないため、一部を屋根のない屋上駐車場とし、建物高さを抑えている。	1.7/4.3	1.9		
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.2/0.8	1.0		
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>			<b>Wの平均点</b>	<b>2.0</b>	
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御		0.5/0.8	3.0		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑化指針に適合している。	0.5/2.3	1.0		
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.82	2.7/5.0	2.7		
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	洗面器に自動水栓を使用、大便器に自動フラッシュバルブを使用、小便器に感知フラッシュバルブを使用。	2.4/4.7	2.5		
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.2/0.8	1.0		
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>			<b>Rの平均点</b>	<b>2.8</b>	
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	給水管、給湯管、消火管でステンレス鋼管を使用。	0.3/0.5	3.0		
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.0/4.0	2.6		
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	建物利用者のための適切な量の自転車置場を確保。	0.3/0.4	3.3		
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>			<b>Hの平均点</b>	<b>1.6</b>	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑化指針に適合している。	0.5/2.3	1.0		
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.82	2.7/5.0	2.7		
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.2/0.8	1.0		

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計 (5点満点)	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)		
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。					
<b>建設段階</b>						
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 車体材料の耐用年数			0.1/0.1	3.0		
<b>修繕・更新・解体段階</b>						
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築車体等の継続利用 2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用			0.8/1.3	3.0		
<b>運用時のエネルギー</b>						
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.82		2.7/5.0	2.7		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

**CASBEE-川崎2017年版**  
**(仮称)ライフ川崎坂越店**

欄に数値またはコメントを記入

21032

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
配慮項目	実施設計段階	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数						
		G	W										
Q 建築物の環境品質										2.3			
Q1 室内環境							0.37		-	2.1			
1 音環境						1.0	0.15		-	1.0			
1.1 室内騒音レベル						1.0	0.40		-				
1.2 遮音						1.0	0.40		-				
1 開口部遮音性能						1.0	1.00		-				
2 界壁遮音性能						-	-		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-		-				
1.3 吸音						1.0	0.20		-				
2 溫熱環境						2.0	0.35		-	2.0			
2.1 室温制御						3.0	0.50		-				
1 室温						3.0	0.46		-				
2 外皮性能						3.0	0.19		-				
3 ゾーン別制御性						3.0	0.35		-				
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-				
2.3 空調方式						1.0	0.30		-				
3 光・視環境						2.0	0.25		-	2.0			
3.1 昼光利用						3.0	0.51		-				
1 昼光率						-	-		-				
2 方位別開口						3.0	1.00		-				
3 昼光利用設備						-	-		-				
3.2 グレア対策						-	-		-				
1 昼光制御						-	-		-				
3.3 照度						-	-		-				
3.4 照明制御						1.0	0.49		-				
4 空気質環境						3.3	0.25		-	3.3			
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-				
1 化学汚染物質						4.0	1.00		-				
4.2 換気						3.0	0.30		-				
1 換気量						3.0	0.50		-				
2 自然換気性能						-	-		-				
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50		-				
4.3 運用管理						2.0	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視						1.0	0.50		-				
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-				

内装材はすべてF☆☆☆☆

Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性							2.4	0.40	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 パリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						2.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				R		3.0	0.30	-	-	
1 車体材料の耐用年数				R		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				R		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				R		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				R		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				R		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				R		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり						4.2	0.30	-	-	
1 階高のゆとり						5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ						3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性						2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性						1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.33	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	G	W	H			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	G					3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮						2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W	H			1.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	2.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	W	H			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用	W	H			3.0	0.13	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W	H	[BEI][BElm] = 0.82		2.9	0.63	-	2.9
4 効率的運用					2.0	0.25	-	2.0
集合住宅以外の評価					2.0	1.00	-	
4.1 モニタリング	W	H			3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W	H			1.0	0.50	-	
集合住宅の評価					-	-	-	
4.1 モニタリング	W	H			-	-	-	
4.2 運用管理体制	W	H			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	2.5
1 水資源保護	W	R			3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.4	0.60	-	2.4
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R			3.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R			1.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R			3.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.6	0.20	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.5	0.70	-	
1 消火剤	W				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				2.0	0.50	-	
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	W		ライフサイクルCO2概算値は排出率84%		3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮					2.0	0.33	-	2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G W	H			1.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減		R			3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制		R			3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制		R	建物利用者のための適切な量の自転車置場を確保。		4.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		R			2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					2.8	0.33	-	2.8
3.1 駆音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 駆音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					2.3	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					2.0	0.70	-	
2 基光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	